

令和6年9月大竹市議会定例会(第4回)

一般質問及び総括質疑通告表

1.

8番 藤川 和弘 議員

質問形式 一問一答

晴海臨海公園の将来像と小方地区まちづくりとの相乗効果について

大竹市の小方地区まちづくりが具体的な計画段階に入中、隣接する晴海臨海公園との連携が重要課題となっています。小方小中学校跡地の活用と晴海臨海公園の一体的な発展により、魅力的で機能的な都市空間の創出が期待されます。

現在進行中の第3期整備工事も踏まえ、晴海臨海公園の将来像について質問します。特に、小方小中学校跡地開発との連携や相乗効果をどのように考えているか。また、新たな機能や施設の導入可能性についてお聞きします。

また、長期的視点から晴海臨海公園の維持管理や運営に関する課題は何か。それらへの対応策、特に小方地区まちづくりとの連携を視野に入れた解決方法についてお伺いします。

ヘルスロードを活かした健康なまちづくりの推進について

①大竹市のヘルスロード活用について、コロナ禍が落ち着いた今、改めて考える時期に来ています。以前の答弁で言及された健康増進への動機づけやPR、ヘルスロードの活用について、その後の進展をお聞きします。

②小瀬川の遊歩道について夜間でも安全に歩けるよう、照明設備の増設や改善を検討する考えはありますか。

③小瀬川遊歩道ウォーキングマップについて、和木町と連携して整備などの計画は可能かどうか。

ヘルスロードは市民の健康づくりの重要な資源です。夜間の安全な利用促進や魅力的なイベント開催により、市全体の健康増進につながります。市の積極的な取り組みについて、執行部の見解をお聞かせください。

2.

12番 山崎 年一 議員

質問形式 一問一答

在日米軍施設・区域における戦闘機に係る態勢の更新、及び、第5空母航空団の機種変更について

本年7月16日に本市に対して、防衛省・外務省から説明のあった表題の件について、大竹市民の生活環境への影響について検証し、安全で安心な市民生活を確保するための方策について問います。

8月2日公表のオスプレイの墜落事故調査報告書について

オスプレイ運用については、昨年屋久島沖合の墜落事故などにより、基地周辺住民には不安があります。新たに、岩国基地に艦載機として配備されることで、基地に隣接する大竹市民にも安全な運用について情報提供が求められています。基地周辺住民の安全対策について問います。

米軍人による性犯罪が非公表とされた事案について

米軍関係者による性暴力事件をめぐり山口県警は非公表としていました。沖縄県でも複数の事件が公表されず、米軍基地の立地する、青森、神奈川、長崎各県でも、ここ数年米兵に

よる性犯罪事件が報道発表されていないことが相次いで判明しました。事件の情報提供は、再発の防止につながり住民の安全な生活保障です。日米両政府は、被害者への謝罪と完全な補償、精神的なケアとともに実効性のある再発防止策について検討すべきです。広島県と大竹市の対応について問います。

3.

5番 岡 和明 議員

質問形式 一問一答

駅伝廃止をめぐる答弁に疑念が晴れないため再度質問します

これまで第70回大竹駅伝競争大会の不透明な廃止について質問し、継続の可能性を提案してきましたが、高齢化によるスタッフ辞退に駅伝中止の原因があるかのような文書を出したことへの反省も聞かれず、密集地の幹線道路を10キロメートルにもわたって占有する駅伝を長年開催してきたにもかかわらず、私が提案する新コースに晴海地区の2商業施設前のわずかな区間が含まれることをもって「渋滞の恐れ」「こいこいバス運行調整の必要」といった耳を疑う理由で否定するといった答弁が行われてきました。

大竹警察署の協力を得ることが駅伝開催のカギでしたが、駅伝予定日が令和5年1月8日であるのに対して、大竹警察署との協議はわずか1カ月半前の11月24日という極めて遅い時期に始まっており、これが開催失敗の何よりの原因であることが情報公開条例に基づいて開示された行政文書から明らかです。

こうした不手際を表に出そうとせず、高齢化に原因があるかのように装ったうえ、一度開催に失敗したことをもって市制前から続いてきた駅伝を廃止する必要性が本当にあったのかどうか、あらためて認識を問います。駅伝が世界に広まりつつある情勢と、大竹駅伝が箱根駅伝には及ばないとはいえ国内（すなわち世界）で最も伝統ある駅伝の1つであり、文化発信の面で本市の貴重な財産であったことを踏まえて考えを聞かせて下さい。さらに本年第70回駅伝が開かれていれば、市制70周年に大きな花を添え、今後とも駅伝を盛り上げていく方向で市民の心が高揚したと強く推測されることも踏まえて答弁をいただきたいと存じます。

小方中学校跡地を用地とする道の駅の問題点について

3月議会で小方地区に構想する道の駅の立地について、小学校（プラス市民プール）跡地と中学校跡地を比較した場合、小学校跡地に圧倒的な利点があることを指摘しましたが、これに対して「工場地帯に出入りするトラックの休憩場所とするので下り車線の中学校跡地が適当」といった答弁がありました。工場が海側にあるから道の駅も海側の下り車線に作るというのは考え方としてあまりに単純であると言わざるを得ず、間口の狭い中学校跡地に大量のトラックを導き入れることは安全面からも懸念が大きく、道の駅本来の姿も損なうとの懸念から、あらためて認識を問います。

4.

11番 西村 一啓 議員

質問方式 一問一答

市制施行70周年を迎え、市内にある歴史的な文化財、建築物などの活用について

西国街道、亀居城趾、歴史的建造物等を本市の歴史的遺産として活用することもまちづくりや市のPRのために必要と考える。

現在計画されている小方地区のまちづくり事業も含めて、今後の市の取り組みや考えを伺う。

大竹市市制施行70年の総括を

大竹市は昭和の大合併で難産の末、少し遅れて9月に誕生しましたが、その後、企業誘致に万難を排して取り組みました。工業用水不足、公害、そして、水余り打開の為の工業用地拡張政策など、初めの一步に関連した諸問題に果敢に、そして、見事に取り組んで来たと思はれます。この70年を総括して市長はどのような感想をお持ちですか。

先進国共通の大問題である少子化対策を質問します

大竹市固有の問題ではありません。日本固有の問題でもありません。先進国共通の問題です。しかし、大竹市でも若年者は減っています。大竹市の魅力を高めて他市町から引っ張ってくる話、お互い様なので他の町ばかり気にしても空しいですよ。ユダヤ教のイスラエルは出生率が3.0ですが、これは例外的数値。フランスでも移民は2.7でその他は1.8。先進国は2.0以下で苦戦しています。その対策について、市長のお考えを伺います。

グラウンドの芝生を考え直しませんか

「校庭芝生には自治体から補助金が出ており、しかも簡単に維持管理。補助金の申請や校庭芝生に関するアドバイス等、弊社が一括サポート致します。」これはネット上の業者の広告文です。どこの話か知りませんが、元野球場と大竹小学校の運動場。芝生の手入れはあれでいいのでしょうか。もっと言えば、本当に芝生の必要性がありますか。お尋ねします。

マイナ保険証の普及と利用促進等について

12月2日から従来の健康保険証は新規発行されなくなり、マイナ保険証の利用を基本とする仕組みになります。厚労省より利用促進に向けた動画やポスターなどの公報素材の印刷提供など、サポートメニューがたくさんあります。このようなものを活用しながら12月に向けて、広報活動を推進し市民に正しい情報発信の取り組みについて伺います。

マイナンバーカードをいまだ保有していない方への対応について

来庁が困難な方に対して「施設等に対するマイナンバーカードの取得支援」の取り組み状況を伺います。

南海トラフ巨大地震の災害対応について問う

気象庁によれば、南海トラフ地震は日本の南海沿岸で発生する大規模な地震であり、その発生確率は非常に高いとされています。具体的には、南海トラフ沿いの大規模地震（マグニチュード8から9クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70%から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。このため、日常からの地震への備えを引き続き実施することが重要との記載があります

令和6年8月8日に宮崎県で震度6弱の揺れを観測したマグニチュード7.1の地震で、気象庁は南海トラフ地震の想定震源域では大規模地震が発生する可能性がふだんと比べて高

まっているとして臨時情報を出し、巨大地震への注意を呼びかけました。

昨年10月に起きた大規模断水や、南海トラフ地震臨時情報の発表など、自分事として捉える機会が増えたことから、緊急時の備えに対する意識が高まっていると感じます。

時代が求める防災のあり方も「住民の命は行政が守る」から、自助（自らの命は自らが守る）・共助（地域コミュニティによる助け合い）・公助（行政は地域コミュニティを支援）の防災の三助へと移り変わっています。

そこでこのたびは、災害時における行政対応の公助と、災害被害を抑えるための自助に対する大竹市の取り組みについて問い、各論として下記4点の事項について質問、提案させていただきます。

- ①避難所の空調設備について。
- ②災害時のトイレ対策について。
- ③こどもたちの防災教育や若者世代の防災意識向上に向けた取り組みについて。
- ④LINEを活用した若年層に向けた防災情報発信について。

8.

3番 豊川 和也 議員

質問形式 一問一答

大竹市公式LINEを使っの防災、災害情報の伝達、市民からの通報システムについて

現在、6月に始まった本市公式LINEにてイベントなどの情報や防災無線の内容コイちゃんnewsなど市民に有益な情報が提供されています。山口県の田布施町公式LINEでは災害時に気象庁からの情報が迅速に送られてきます。スマートフォンの位置情報を使い近くの避難所情報が簡単で分かる仕組みにもなっています。

また、町民からの発信では町道の損壊情報、ごみの不法投棄などが通報できるシステムにもなっております。

- ①現在本市が契約している防災ツール会社（メール配信等）はありますか。
あれば現在のところはどのような契約なのか。
- ②災害情報は現在、広島県もヤフー株式会社と連携をしてアプリ登録者へ配信しているがその情報を使用し災害情報、避難所検索を本市公式LINEにシステムを自動的に組み込むなどして登録者への通知を今後お考えは。
- ③県道や市道の損壊状況や不法投棄など市民から発信できる通報システムについて今後採用のお考えは。

本市設置のAED（自動体外式除細動器）について

本市のAED（自動体外式除細動器）設置状況などについて。

- ①現在の設置状況を教えてください。
- ②AEDの定期点検や入れ替えはしていますか。
- ③自治会や団体へのAED購入助成金のお考えは。

9.

14番 細川 雅子 議員

質問形式 一問一答

玖波公民館から地域交流施設につなぐこと

令和6年3月に玖波地域交流施設の基本構想・基本計画が出来上がり、今年度からは基本設計・実施設計という次のフェーズが進んでいる。建物の設計と同時に運営の設計も進めていることと思うが、会館までの準備は大事になってくる。

新施設のコンセプトである「多世代が気軽に集い 誰とでも楽しく交流できる地域の“元気拠点”」は、まさに現在の玖波公民館が目指して積み上げてきた姿に思える。

- ①玖波公民館が社会教育を通して作ってきたものをどのように評価しているか、そのうえで、何を引継ぎ、どう発展させようとしているか、そのために今後の残された時間をどう使うのか考えを問う。
- ②そのうえで、先般の議会全員協議会で発表された、「10カ月の休館」と「管理・運営は生涯学習課でしていく」とのお考えについて説明を求める。